オーディオ実験室収載

EMT981 再生系の再構成(15)
－ハイドンを聴く(6)－

１．はじめに

前報(3)において EMT981 から Truphase を経て 300B アンプまでのバランス伝送が実現した機会に、手持ちの CD を聴き直していくことにしました。今回も、しばらく聴いていないハイドンの作品を聴いていきます。

２．EMT981 の試聴方法

EMT981 の再生では、前報(7)と同様に前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(＊)→TruPhase→.300B

＊：GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

古い録音で定位などに違和感が感じられるときは TruPhase で位相を反転します。

再生する CD はハイドンの弦楽四重奏曲です。

Hyperion　CDA67793
ハイドン　弦楽四重奏曲作品 71 No.1～No.3
タカーチ四重奏団
PHILIPS　UCCP-7080
ハイドン　弦楽四重奏曲作品 67＜ひばり＞
ハイドン　弦楽四重奏曲作品 17＜セレナーデ＞
ハイドン　弦楽四重奏曲作品 76＜五度＞
ハイドン　弦楽四重奏曲作品 77＜皇帝＞
イタリア弦楽四重奏団

３．EMT981 の試聴結果

タカーチ四重奏団盤もイタリア弦楽四重奏団盤も、演奏会で求めてきたものです。

タカーチ四重奏団盤は、2010 年と 2011 年の録音で、アップテンポ気味で切れの良い演奏で、音質はワンドレンジであり、透明度が高い演奏です。

イタリア弦楽四重奏団盤は、1965 年と 1976 年の録音で、お馴染みの曲ばかりで、イタリアのグループらしくよく歌わせる演奏です。録音が古いのですが、PHILIPS レーベルなので位相反転は必要ないようです。

４．まとめ

クロック入力した EMT981 からのバランス接続の効果で、二つの盤とも録音年代の違いも分かり、ディジタル臭さを感じない艶やかな音が楽しめます。

以上